



平成27年9月4日

各位

会社名 九州電力株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 瓜生 道明  
 (コード番号 9508 東証第一部・福証)  
 問合せ先 業務本部予算グループ長 中尾 嘉宏  
 (TEL 092-761-3031)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

平成27年7月31日に公表した平成28年3月期の業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 業績予想の修正について

平成28年3月期第2四半期(累計) 連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	940,000	-	-	-	-
今回修正予想 (B)	930,000	70,000	55,000	45,000	95.00
増減額 (B-A)	10,000	-	-	-	-
増減率 (%)	1.1	-	-	-	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	929,524	16,265	31,946	35,901	75.91

平成28年3月期第2四半期(累計) 個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	880,000	-	-	-	-
今回修正予想 (B)	870,000	60,000	55,000	50,000	105.49
増減額 (B-A)	10,000	-	-	-	-
増減率 (%)	1.1	-	-	-	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	876,957	24,213	41,542	34,630	73.18

平成28年3月期通期 連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,895,000	-	-	-	-
今回修正予想 (B)	1,880,000	-	-	-	-
増減額 (B-A)	15,000	-	-	-	-
増減率 (%)	0.8	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	1,873,467	43,314	73,693	114,695	242.38

平成28年3月期通期 個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,765,000	-	-	-	-
今回修正予想 (B)	1,750,000	-	-	-	-
増減額 (B-A)	15,000	-	-	-	-
増減率 (%)	0.8	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	1,761,275	59,380	93,080	119,010	251.32

修正の理由及び連結業績予想に関する定性的情報

平成28年3月期第2四半期(累計)の業績予想につきましては、川内原子力発電所1号機の発電再開後の運転状況を確認した上で利益予想をお知らせすることとしておりましたが、同機が8月31日以降、定格熱出力一定運転を行っていることから、最近の需給動向等を踏まえ、予想値を算出しましたので公表いたします。

当社グループにおきましては、電気事業において、原子力発電所の停止が長期化する中、原子力を代替する火力燃料費等の増大により、依然として厳しい収支・財務状況が続いており、修繕工事等の年度内繰延べなど緊急的な支出抑制に取り組んでいます。

このような状況のもと、当第2四半期(累計)の業績予想につきましては、前年度後半からの燃料価格の大幅な下落により燃料費が減少する一方で、燃料費調整による電灯電力料への燃料価格下落の反映が期ずれすることなどにより、経常黒字となる見通しです。

売上高は、電気事業において、燃料費調整の影響による料金単価の低下等により電灯電力料は減少しますが、再エネ特措法交付金が増加することなどから、前年同四半期並みの9,300億円程度となる見通しです。

経常損益は、電気事業において、再生可能エネルギー電源からの購入電力料は増加しますが、燃料価格の大幅な下落や川内原子力発電所1号機の発電再開等により燃料費が減少することに加え、グループ体となった費用削減に取り組んでいることなどから、前年同四半期の損失319億円から改善し、550億円程度の利益となる見通しです。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は、前年同四半期の損失359億円から改善し、450億円程度の利益となる見通しです。

なお、平成28年3月期通期の業績予想につきましては、売上高は、電気事業において、販売電力量の減少や燃料費調整の影響による料金単価の低下等により電灯電力料が減少することなどから、前回公表値を下回り、1兆8,800億円程度となる見通しです。

利益は、川内原子力発電所2号機及び玄海原子力発電所の具体的な発電再開時期が見通せないことから、下半期の燃料費などの費用を合理的に算定できないため、今後、業績予想が可能となった時点で、速やかにお知らせいたします。

(参考) 主要諸元表

	第2四半期累計期間		通 期	
	今回公表	前回公表	今回公表	前回公表
販売電力量	396億kWh	402億kWh	811億kWh	817億kWh
原油CIF価格	61\$/b	62\$/b	60\$/b	64\$/b
為替レート	123円/\$	123円/\$	124円/\$	124円/\$
原子力設備利用率	4.4%			

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上